

「市民参加推進力」指標について ～令和4年度の審議予定～

令和4年7月20日

令和3年度市民参加推進力指標の審議の振り返り

市民参加推進力指標の検討の経緯

- ・ 第3期市民参加推進計画に計画推進の成果として「京都市の市民力の向上」が掲げられたが、同時にその「評価方法を含め、継続的な議論と見直し」とあり、考え方や評価方法を定める必要があった。
- ・ 令和2年度末に市民参加推進計画を策定し、今後計画の進ちよく管理を行うために、計画で推進する13施策のPDCAサイクルによる評価方法を定める必要があった。

令和3年度審議の振り返り ①市民参加推進力の定義

(定義)

市民参加推進力は、市民参加における参加と協働を進める力で、市民参加推進計画の「重視する視点」と13の「施策」を進めることで市民参加推進力の向上を図るもの。

(考え方)

- ・ 市民参加推進計画の「目指す未来像（行政運営の理念）」の実現を目指すことから、未来像の表現「参加と協働により、豊かで活力のある地域社会の実現」から導出
- ・ 市民参加を後押しするもの。計画の達成を目指した施策の総和の結果、市民参加推進力の向上が図られる。
- ・ 市民参加推進力は、行政だけでなく、市民、事業者、大学等、地域の皆が、市政参加とまちづくりにおいてこの力の向上を目指すもの
- ・ 誰か特定の方を評価するわけではなく、京都市全体の市民参加の健康診断のようなもの。

令和3年度審議の振り返り ②市民参加推進力指標で測るもの

「目指す未来像」
(行政運営の理念)

「目指す地域社会の姿」
(ビジョン)

市民参加推進力指標
 市民参加推進力の向上については、市民参加推進計画の3つの「重視する視点」と13の施策の進ちよくを測ることで確認。

(指標の考え方)

- ・ インプット（資源の投入）に対するアウトカム（実績，成果）を測る。
- ・ 市民の活動が向上した結果，伸び率を測る。
- ・ 指標を考える前提として，課題を設定することが重要
- ・ ロジックモデルを用いて，解決すべき課題の仮説を立てて，そこから目標を立てる。

これらを測る指標を設定

- 基本方針1：市民との未来像・課題の共有
→ 3施策で推進
- 基本方針2：市民の市政への参加の推進
→ 5施策で推進
- 基本方針3：市民のまちづくり活動の活性化
→ 5施策で推進
- 計画を着実に進めるための推進体制
→ 13施策を進める3つの取組

- 本計画期間5箇年の「重視する視点」
- ・ 重視する視点1
「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進
 - ・ 重視する視点2
次世代につながる市民参加の裾野の拡大
 - ・ 重視する視点3
協働による課題解決への挑戦

令和3年度審議の振り返り ③市民参加推進力を構成する力

重視する視点1 ▶ 「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進

あらゆる主体が、つながり、共に行動し、持続・発展するには、各主体が対等の立場で、安心して対話することにより、情報を共有し、共に学び合い、信頼し合えるようにします。

⇒ まちの課題共感力

重視する視点2 ▶ 次世代につながる市民参加の裾野の拡大

多様な市民一人一人が、一歩踏み出し、主体的に取り組めるよう、子ども・若者をはじめ、より多くの方が市民参加しやすい仕組みづくりやきっかけづくり、学ぶ機会の創出など、次世代につながる、市民参加の裾野を更に広げていけるようにします。

⇒ まちの育成力

重視する視点3 ▶ 協働による課題解決の挑戦

多様化、複雑化する課題の解決に向けて、課題も含めて行政の情報をオープンにし、組織や立場、分野や世代を越えて、多様な主体が参加し、知恵と力を結集し、協働して実践する、挑戦できる仕組みをつくります。

⇒ まちの課題解決力

令和3年度審議の振り返り（令和3年度第4回フォーラム）

- 3つの論点について
 - ① 「市民参加推進力」の定義と考え方について
⇒ おおむね了承
 - ② 市民参加推進力指標で測る対象（「重視する視点」と施策）と
考え方
⇒ おおむね了承（意見付き）
 - ③ 3つの「重視する視点」の指標名について
⇒ 継続審議

令和3年度審議の振り返り 前回フォーラムでの主な意見①

(評価そのものについて)

- 市民参加推進計画を立てたからには市民参加の取組について、どのような状態であるかを測らなければならない。健康診断みたいなもので、測って初めて状態が分かる。
- (政策や計画の進捗を) 測るための指標を作って、投入する資源に対してどういった成果・結果が出たかを確認する。
- 行政が推し進める事業の成果の把握は非常に難しい。

(指標の評価対象について)

- 自治体そのものの情報公開が不十分であり、情報公開が進む状態をどうやって確保していくか、情報公開と市民の理解度を一緒に測れることが大切である。
- 評価に関して、総合的な評価や個別の評価があるが個別の取組についても評価が重要だ。
- 18ページ目の活用方法のところに掲載されている。①は市民参加計画の評価で、②と③はまちづくり活動自体を評価する。③で六原の取組がなぜうまくいったかなどを分析すれば、他の参考にできるのでは。地域の活動で何をすれば良くなるかが分かる。色々な評価事例を積み重ねていく必要がある。

令和3年度審議の振り返り 前回フォーラムでの主な意見②

(数値指標について)

- 指標の数値は既存のものがあればそれを参考する。
- インパクト評価, ロジックモデルを活用して評価をする際, アウトプットの数字はある。市民意見の聴取機会の回数, 研修は何回開催されたなどであるが, アウトカムの部分は, 既存のアンケートだけだと埋められないかもしれない。
- 指標を数値化する際に参考にする水準の設定はどうするのか。他の市と比較するのか。

(指標名について)

- 指標名のネーミングは難しい。どんな文脈を踏まえて名前をつけるかが難しい。部会で審議した結果, 一定の方向性が見えるところまで議論ができた。
- 共感の主観的な言葉である。育成とか課題解決は客観的である。何を評価するかというところであいまいになる。
- 「育成力」についてすそ野拡大のところでもあるが, この名称だとねらいが見えない。育成だけでなく, 次世代につながるように広げるという意味で, こども「発展的」とかの言葉にするのはどうか。

令和4年度の市民参加推進力指標の審議（予定）

（令和4年度を通して）

- ・ 市民参加推進力の活用方法を確定（①市民参加推進計画の13施策，②市民参加関連の事業，③市民団体，大学生の活動，の分析・評価）
- ・ 市民参加推進力指標の試行的な評価の実施

（各回の予定）

第2回 市民参加推進力指標の活用方法に係る審議

- ・ 市民参加推進力指標の活用方法（指標の活用対象，ロジックモデルを組み入れた分析・評価方法の確定など）
- ・ 市民参加推進力指標名の検討（「共感力」「育成力」）

第4回 市民参加推進力指標を活用した市民参加推進計画の施策の試行的な評価

- ・ 1～2施策をロジックモデルを活用して試行的に分析・評価